

2024年度 ブロック長意見交換会

1. 日 時 : 2024年9月16日 (月・祝) 13:05-14:30

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル会議室 ZoomにてWeb会議

3. 出席者

(1) 本人出席者 24名

大橋健(代表理事)、水野勝教(専務理事)、今井俊二(理事・沖縄)、中島晃芳(理事)、野村泰朗(理事)、松山森仁(理事)、森重智年(理事)、政岡恵太郎(理事)、瀧本英智(理事)、田中宏明(監事)、宮下充(関東)、玉水亘(埼玉)、吉楽雅典(北信越)、川上誠(静岡)、山田吉孝(東海)、宮崎倫明(岐阜)、出村公成(石川)、森本奏多(関西)、吉本光希(京滋奈・サッカー技術委員長)、玉島琢巳(兵庫)、樋川直人(四国)、是澤郁(九州)

(2) 欠席者 9名 島谷太(理事・阪神)、松本紗映(北海道)、高橋忠(東北)、山田巧(群馬)、設楽信二(茨城)、井関暁洋(中丹・南丹)、澤山博幸(岡山)、山野真一(広島)、村川立美(島根)

(3) その他出席者 梅田寛康(オンステージ技術委員長)
前田正久(事務局長)、浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)

4. テーマ

1. 2024名古屋大会総括
2. 2025名古屋大会について
3. 競技運営指針について
4. サッカー・カテゴリー編成について
5. その他

5. 資料

- 資料1. RCJJ2024 エントリチーム・登録者数集計
- 資料2. RCJJ2024名古屋参加者アンケート
- 資料3. サッカー新リーグ設立について

6. 意見交換会概要

(1) 2024名古屋大会の総括

・サッカー技術委員長の吉本氏より、2023年大会の課題であったシステムを改善し、2024年大会は問題なく実施できた。WSLの順位決定において問題が発生し、表彰式まで試合がずれ込みご迷惑をお掛けした点は、改善する必要があると述べた。

・レスキュー担当の森重理事より、全体として約10チーム増、上位リーグへのシフトで成果が見られた。大会運営について、皆さまのご協力もあり大きな問題なく終えることができた。

・OnStage技術委員長の梅田氏より、昨年度より、参加スタッフは増えたが、参加チームが減った。OnStageの参加資格について、NLの上位入賞者以外のチームは、引き続きNLに参加できるという案が技術委員会で議論されており、案がまとまり次第報告する。

・受付担当の瀧本理事より、人数の割り振りについて、検討が必要との報告がなされた。

・交流会担当の野村理事より、当日は各リーグのボランティアスタッフからロボットの説明やOnStageチームに活動の様子、ロボットのプレゼンをしてもらった。技術委員とのコミュニケーションが不足しており、事前の案内が不十分であった。各リーグで出来る交流とリーグの垣根を超えた交流の方法について、技術委員と相談し進めていきたい。

(2) 2025名古屋大会について

・水野専務理事より、8月に開催委員会を設立、9月に実行委員会が実施され、3年目となる今年、前年度までを踏襲する形で進めるとの報告がなされた。

(3) 競技運営指針について

・大橋代表理事より、午前の理事会で以下2点について、承認がなされたことを報告した。

① 世界大会選抜無し、年齢制限（中学生以下）ありのサッカーLWを新設した。

② 従来はWL/NLの枠の中にサッカー、レスキュー、オンステージがあったが、各リーグ（サッカー、レスキュー、オンステージ）の中に世界大会へ行くリーグと日本独自のルールを適用したチャレンジリーグを設ける体制に変更した。

・森重理事より、リーグの構成は変更になるが、ブロックの推薦方法、世界大会の年齢制限、バッテリールールなどに変更はなく、2023年の競技運営指針を踏襲している。

(4) サッカー・カテゴリー編成について

・サッカー技術委員長・吉本氏より、資料3を基に新リーグの説明を行った。新LWは、世界選抜無し、中学生以下であれば、出場回数の制限は無し。ルールはWSLと同じ。新リーグ設立の理由の一つとして、スイス式の精度をあげるため、WSLの60チームを40チーム程度に減らす必要がある。ジャパンオープンの選抜方法（暫定）として、ブロック長は、①ブロック（ノード）のエントリー時に従来のLWか新リーグのLWに参加かを確認②12月末までにチーム数を報告③LWと新リーグLWの枠数を決定。なお、ノード、ブロック大会でLWと新リーグLWの競技を分けて実施するか否かは、各ブロックの判断とするものとし、ブロック長へ新体制への協力を求めた。

(5) その他

・OnStage技術委員長・梅田氏より、以下の2点について、技術委員で議論を行っている。

① 参加資格について、NLの3位入賞チームは、次回大会参加時は上位リーグへ移行する。3位以下のチームは、年齢制限に達するまでNLに参加することができる。

② 世界大会に準じて、ワールドリーグの審査にポスター審査を含める。まずはワールドリーグからの適用を検討している。

関東ブロック長・宮下氏より、2024年の競技運営指針に反映されるかという質問に対し、梅田氏より反映されるとの回答があった。

・レスキュー森重理事より、レスキューでは技術委員会の世代交代を推進中。シミュレーションに参加チームのある京滋奈ブロック、岡山ブロックに対し、技術委員への協力をお願いした。国際公式競技の2024ルールにおいて、いくつかの変更点があり確認が必要である。評価方法の変更も検討しているが、スタッフへの負担を考慮しどこまで準拠するか検討中である。CoSpace Autonomous Drivingのオンライン大会を無償提供のシミュレーターを使用して開催予定。

関東ブロック・宮下氏より、2024年はシミュレーションとAutonomous Drivingの予選会があり、二重エントリーの問題があったが、今年度は開催するかとの質問があった。これに対し、森重理事より、各ブロックや他のリーグと協力し、ブロック大会を実施して欲しいが、難しいようであれば関西ブロックを含めたブロック大会の開催が可能かどうか検討し、案内すると回答があった。

・大橋代表理事より、各ブロックからの活動状況の報告を求めた。

●福島・栃木ブロック長代理・サッカー技術委員の伊藤盛人氏より、4月～9月小学生初心者向けの体験会を開催し、希望者にはサッカーリーグへの参加を呼びかけている。

●関東ブロック長・宮下充氏より、2023-2024年は、参加者は減少傾向にあり、サッカー減、Mazeエントリー増、シミュレーションのエントリー無し。4月28日にはOB・OG会を開催し59名の参加があり、スタッフ参加への協力を求めました。9月30日頃、大会エントリーを開催予定、関東ブロック大会は2025年1月12日-13日を予定。

●埼玉ブロック長・玉水亘氏より、9月29日にルール説明と練習競技会を開催。12月15日北埼玉ノ

ード、12月22日南埼玉ノード、2025年1月12日ブロック大会を開催予定。

●北信越ブロック長・吉楽雅典氏より、小中学生の参加が減少しているため、工作教室の再開を検討中。サッカーとOnStageは高校や高専からの参加者が多いため、これまで他のロボット競技会へ参加する都合上、ブロック大会の開催時期が遅れご迷惑をお掛けした。今年は見直しを行い12月22日にブロック大会を開催する予定。

●静岡ブロック長・川上誠氏より、沼津ノードと磐田ノードでサッカー競技のみを実施。沼津ノードの活動は順調で25～26名が活動に参加。12月中旬頃ノード大会、1月中旬にブロック大会開催予定。

●東海ブロック長・山田吉孝氏より、12月7日ブロック大会開催予定。例年どおりサッカーとレスキュー競技を実施、シミュレーションやOnStageの参加が新規にあるかもしれない。

●岐阜ブロック・宮崎倫明氏より、ノード大会9月末、ブロック大会2025年1月26日開催予定。例年は、サッカー30チーム、レスキュー20チーム、シミュレーション1チームの参加予定。

●石川ブロック長・出村公成氏より、コロナ以降参加チームが減少している。ノード大会を兼ねた体験会を開催予定。

●関西ブロック長・森本奏多氏より、レスキューとサッカー競技のみで12月頃よりノード大会を順次開催、1月12日にブロック大会を開催予定。

●京滋奈ブロック長・吉本光希氏より、世界大会に出場したチームがエントリーレベルの子供に勉強会を実施する等の活動をしている。2025年1月12日ブロック大会開催予定。

●兵庫ブロック・玉島琢巳氏より、サッカーとレスキュー競技で12月22日にブロック大会を開催予定。ロボットの部品の価格が高騰しており、作製費用も上がり困っている。

●広島ブロック長代理・森重理事より、10月から順次ノード大会を開催し、2025年1月26日ブロック大会を開催予定。体験会を例年どおり開催できず、新規参加者が縮小している。せとうちオープンを年1～2回開催しており、広く参加を呼び掛けた。

●四国ブロック長・桶川直人氏より、香川、愛媛、徳島の3ノードで活動中、愛媛の活動が縮小している。サッカー、レスキュー競技で2025年1月26日ブロック大会開催予定。

●九州ブロック長・是澤郁氏より、12月に福岡、北九州でノード大会を開催予定。長崎ノードは大会開催無し。2025年1月12日ブロック大会開催予定。

●沖縄ブロック長・今井俊二氏より、那覇以外はプログラミングサークルからの参加。普及のため、体験会、組立講座、2泊3日のキャンプ等を実施。ブロック大会は年内開催予定。

・OnStage 技術委員長・梅田氏より、技術的指導等が必要であれば相談頂きたい。また、OnStage の参加チームが少ない理由があればお伺いしたい。東海ブロック長・山田氏より、学校や塾であればグループでの参加ができるが、個人だと OnStage の参加は難しいのでは。森重理事より、どうやって指導すればいいのか難しいという意見はある。

・関東ブロック長・宮下氏より、①競技運営指針の開示はいつ頃か。開示されないとエントリーがスタートできない。これに対し森重理事より、各技術委員からルールを取りまとめる必要があり、9月25日頃を目標に発表したいが、間に合わない場合はドラフトを出すとの回答がなされた。②資料2の大会アンケートについて、どのように活かしていくのか、方向性、将来性が見えない。これに対し大橋代表理事より、コロナ禍で将来性についての議論ができていなかったもので、今後は理事会でも話を進めていきたい。森重理事より、メディアではAIが話題になるので、シミュレーションと実機の両方ができることをうまくアピールできていないことが課題である。先ほどのロボット製作には費用がかかるという点では、シミュレーションは答えのひとつになり得る。中島理事より、ブロック全体の体制についても議論しているが、RCJJ 主体で困っているブロックをサポートする体制や、ノードからの一括エントリーを実現したい。

・九州ブロック長・是澤氏より、ジャパンオープン以外の普及活動、交流会、講習会などを充実させて欲しいとの要望がなされた。

・OnStage 梅田氏より、参加者からホームページが分かりにくい、Instagram を活用してはどうかとの意見があった。動画コンテンツなど上げてはどうかとの意見があった。関東ブロック長・宮下氏より、ライブ配信や動画コンテンツを上げたが、あまり再生回数は伸びなかった。RCJJ で広報動画を作成して

はどうかとの意見があった。水野専務理事より、前回の総会で HP 更新費用が承認されたので、現在作業を進めているとの回答があった。

- ・水野専務理事より、2025 年名古屋大会以降の開催候補地が決まっていない。誘致を考えている自治体があれば、紹介頂きたい。また、大会スポンサーだけでなく、RCJJ 本体へのスポンサーも探しているとの説明がなされた